

平成29年度病害虫発生予報第6号

平成29年 9月 1日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は平年並 主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量はほぼ平年並	± - ±
	紋枯病	多い	県全域	8月下旬の発生量は多い 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	トビイロウンカ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	コブノメイガ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	-
	フタオビコヤガ	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	-
	斑点米カメムシ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	+
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は平年並か高い	- ± ±~+
	オオタバコガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は平年並か高い	+ + ±~+

・防除対策

[イネ・紋枯病]

病斑が上位葉に伸展する前に、アミスターエイト、モンカットフロアブルなどで防除しましょう。

[イネ・斑点米カメムシ類]

7月14日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

[ダイズ・オオタバコガ]

8月17日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

・留意事項

トビイロウンカは、県内6か所に設置した予察灯には誘殺されていません。ただし、水田内での発生を6月下旬と7月下旬に確認しています。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがあるので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

コシヒカリなど早期栽培水稻でイネ縞葉枯病の発生が多い状況でした。収穫後のひこば

えは、ヒメトビウンカの生息場所となり、ヒメトビウンカは発病株から病原ウイルスを保有し、次作の伝染源となりますので、速やかに水田を耕起し、ひこばえを放置しないようにしましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや少ない	県全域	8月の枯れ枝上の孢子形成量は やや少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温は平年並か高い	＋ ±～＋
	チャノキイロアザミウマ	やや多い	県全域	8月下旬のイヌマキにおける発生量は多い 8月下旬の発生量はやや多い 黄色粘着トラップにおける誘殺数は平年並	＋ ± ±
モモ	せん孔細菌病	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない 9月の降水量はほぼ平年並	－ ±
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	－ －
ブドウ	べと病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 ヒノキ球果量はやや多い 8月中旬のヒノキ球果口針鞘数調査では、9月中旬以降に離脱する個体が多くなると予測	± ± ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

発生量の多いほ場ではスターマイトフロアブルやコロマイト水和剤などで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

防除適期である第6世代の成虫発生ピーク予測日を8月31日までの気象データを用いて計算したところ、名古屋8月27日、大府8月28日、伊良湖8月31日、愛西9月1日、蒲郡9月2日、豊田、南知多及び豊橋9月3日、岡崎9月4日、新城9月9日となりました。8月1日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第3号」と比べ、1日前後している地域があります。防除適期を迎えている地域では、防除を実施しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

予察灯における誘殺数は全体として平年並ですが、豊橋市ではクサギカメムシとツヤアオカメムシの誘殺数が8月中旬以降平年値を超えています。発生量の多いほ場ではアクタラ顆粒水溶剤（ナシ・カキ共通）やテルスターフロアブル（ナシ・カキ共通）などで防除

しましょう。果樹カメムシ類の発生状況及びヒノキ球果からの飛来予測については、本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。

・留意事項

ナシうどんこ病の発生が一部のほ場でやや多くなっています。病徴が広がると早期落葉することがありますので、ストロビードライフロアブルやトリフミン水和剤などで防除しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	前年11月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	＋ ±
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は多い	± ＋
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月の発生量はやや多い 9月の気温は平年並か高い	＋ ±～＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は平年並か高い	± ±～＋
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は平年並か高い	± ±～＋

・防除対策

[キャベツ、ハクサイ、ダイコン・コナガ]

アファーム乳剤やディアナSCなどで防除しましょう。

[キャベツ、ハクサイ、ダイコン・シロイチモジヨトウ]

キャベツは、本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。ハクサイ、ダイコンはデルフィン顆粒水和剤で防除しましょう。

[キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ]

キャベツ、ハクサイは育苗期後半や定植時に粒剤やかん注処理剤で、ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。定植後はアファーム乳剤（キャベツのみ）やディアナSCなどで防除しましょう。

・留意事項

オオタバコガは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、豊橋市でやや多い状況です。発生に注意し、適切に防除しましょう。本日発表の「オオタバコガ情報第2号」を参照してください。

ハスモンヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、東三

河地域でやや多い状況です。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に発生に注意して適宜防除しましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、アファーム乳剤やモベントフロアブルなどで必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アブラムシ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は平年並か高い	± ±～+
	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並 9月の気温は平年並か高い	± ±～+
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は平年並か高い	± ±～+

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月31日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 20% 平年並 : 40% 高い : 40%

〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%